

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26—86	中学校	社会科	公民	3学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	公民—932	社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして		

1 編修の趣旨及び留意点

▶ “新しい社会を生み出す創造力”をめざして

現在の社会はグローバル化・情報化・少子高齢化など、様々な変化が急速に進んでおり、中学生が身につけるべき知識や教養も変化しています。私たちは、中学生が優れた日本の伝統をしっかりと継承できるように配慮しつつ、社会の変化をしっかりと踏まえた学習が可能になるよう意を注ぎました。

その上で私たちは今回の教科書の編修にあたって、これからの社会を生きていく中学生に対し、“新しい社会を生み出す創造力”を身につけ、「公共の精神」を尊びながら主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと考えました。将来において、社会に対する安心感をいだきながら平和な生活を持続していくためには、現在の社会の成り立ちやしくみを知るだけでなく、新しい社会に合わせたしくみやモデルを創り上げていく能力が必要です。その“創造力”を育成することができるよう、私たちは以下のような点に留意して教科書を編修いたしました。

社会科の編修方針

- ① 社会のしくみや現状など、社会科の基礎・基本がしっかりと身につく教科書に
- ② 社会を形成する人々の様々な工夫や努力が見える教科書に
- ③ 現代社会の諸課題と、その解決に向けての取り組みが見える教科書に
- ④ 人々が作り上げてきた世界や日本の各地にある様々な文化が認識できる教科書に
- ⑤ 様々な考えをもつ人々と共生していくことの大切さを伝える教科書に
- ⑥ 新しい社会の形成に参画していくことの大切さを伝える教科書に

2 編修の基本方針（教育基本法 第2条 への対応）

- 第1号** 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うこと」について、本書では、社会のしくみや制度の現状についての知識を得ることとともに、「なぜそのしくみが必要か」「その制度によってどのような影響があるか」といった、意義や背景なども含めて理解を深めることと捉えました。

- ①本文は、全編にわたり、社会のしくみや制度の現状について、具体例をあげて記述し、その意義や背景についてもわかりやすい記述を心がけました。

例 p.121 本文7行目～ 企業の「利潤」について

新しい商品や技術を開発したり、ほかの企業よりも安くて品質の良いものを供給したりすれば、その企業の商品はたくさん売れ、利潤も大きくなります。しかし、こうした努力をおこなえば、利潤は小さくなります。つまり、利潤は、企業の努力の結果を反映した「成績表」だともいえるでしょう。

- ②一般ページの各見開きは、知識や教養をしっかりと定着できるための構成をとりました。

見開きの最初には、学習内容に関連した具体事例を設置し、現実の社会と学習内容との「橋渡し」ができるよう配慮しました。 ● 導入資料「クローズアップ」

続いて学習課題をはっきり示し、生徒がこの単元で何を身につけるべきかを把握したうえで学習に入れるようにしました。▶「学習課題」

本文や資料で学習を進めたのちには、見開きの最後に学習内容を本文などから確認する作業をおき、知識を定着できるページを設けました。あわせて、学習内容を自分の言葉で説明することによって、自分なりに学習を整理し、表現力を高めるきっかけも示しました。▶「確認しよう」「説明しよう」

- ③ 1～2章ごとの最後に、これまで学習した内容をふりかえり、しっかり知識を定着できるページを設けました。こうしたページは、生徒が家庭で学習するさいにも役立てられます。▶「学習をふりかえろう」：p.58～59 など

「豊かな情操と道徳心を培う」ことについて、本書では、中学生が人は他人とのつながりの中で生きていることを認識し、他者の立場でものごとを考えたり、相手に共感したり、助け合ったりすることの大切さを実感できるようにすることと捉えました。

- ① 家族や地域社会の重要性をしっかりと理解できるよう、それぞれ見開きを設けて学習できるようにしました。ここでは、最も基礎的な社会集団である家族のかけがえのなさや、地域社会に参画していくことの大切さを実感し、公共の精神について理解できるよう配慮しました。

例 p.19本文15行目～ これからの家族と私たち

家族のあり方はさまざまです。しかし、時代や社会が変わっても、家族が「かけがえのない存在」であることは変わりません。それは、家族はそれぞれ役割を分担し、「きずな」を大切に助け合い、はげまし合いながら成長し合う存在だからです。

- ② 見開きの最初に具体事例を配置することによって、生徒が驚きや共感をもって学習を進められるよう配慮しました。▶導入資料「クローズアップ」、第1号 参照
- ③ 実社会で活躍する人々の「生の声」を多数掲載し、人々がさまざまな工夫や努力を重ねている姿を臨場感をもって伝え、共感しながら学習できるようにしました。▶p.122「開発者の声」など

第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことについて、本書では、中学生が興味・関心を高めて主体的に学習に取り組み、自分なりの意見や考えをもてることが重要であると捉えました。

- ① 各部の初めに、大きなイラストや資料からの読み取り作業を行うページを設けました。これにより、生徒一人ひとりが自分なりにイラストから学習内容に関する事象を探し出し、主体的に学習に取り組む意欲を高められるようにしました。▶「学習の前に」：p.2～3, 30～31, 104～105, 164～165

例 p.2～3 30年前と今の社会を比較してみよう

「30年前のまち」と「現在のまち」のイラストを比較し、変化した点を探し出すことから、少子高齢化、情報化、グローバル化といった現代社会の特色に気づくことができます。そして、章の学習をふまえ、p.28で改めてふりかえるよう構成しています。



- ② 意見をまとめたり、話し合ったりする場面を数多く設定し、学習した内容をさらに深めることによって、生徒の自主性や創造性をのばせるよう配慮しました。▶特設ページ「トライアル公民」：p.82～83「裁判の判決を考えよう」など

「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う」ことについて、本書では、働くことの意義は単にお金をかせぐだけではなく、社会に参画し、生きがいや充足感をもつことにもあると知ることが重要であると捉えました。

- ①第3部3章では、章全体を通じて企業経営を疑似体験し、経営上つぎつぎと起きる問題点に対して自分なりに意思決定をする場面を設けました。これにより、知識・理解だけでは伝わらない「働くことのやりがい」を実感し、自分が将来働くにあたっての意欲を高められるようにしました。▶ p.121～145「パン屋の経営者になってみよう」
- ②見開きの導入に、学習内容に関係する実社会の具体事例を数多く取り上げました。これにより、社会の制度やしきみと現実の社会とを「橋渡し」ができ、自分自身も社会に参画していく意欲が高まるよう配慮しました。
▶ 導入資料「クローズアップ」：p.132「障がいがあっても働ける場を」など

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる」ことについて、本書では、異なる立場の相手を尊重する態度が重要であると捉え、社会や政治などそれぞれの分野で強調しました ▶ p.13「文化の多様性と異文化理解」など

「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、現代社会には様々な課題があり、それらに人々がどのように取り組んでいるのかを理解し、生徒が社会に参画していく意識や態度を身につけることが重要であると捉えました。

- ①少子高齢化、グローバル化など現代および将来の社会が直面する課題とそれらへの取り組みについて理解することによって、自分自身も社会の一員として公共の精神をもち、主体的に社会の形成に参画する責任があることを実感できるようにしました。▶ 各部の本文、「羅針盤マーク」のコラムなど

例 p.157 高齢社会を支える年金

少子高齢化が進み、保険料を納める世代が減っている現状や、年金未納が増えている問題点を指摘し、年金制度を維持するためには納付率の向上が重要であることを理解できるよう配慮しています。

- ②企業や地方公共団体による先進的な取り組みの事例を紹介し、持続可能な社会のあり方のヒントとできるようにしました。▶ 特設ページ「未来に向けて」：p.98～99「防災とまちづくり」など
- ③政治分野では、部のまとめとして若者の政治参加の大切さを伝える見開きを設けました。▶ p.98～99「私たちと政治参加」

第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、高度経済成長期における公害の克服や、現在の地球環境問題に対する日本や世界の取り組みを通じて、生命の大切さや持続可能な社会に向けた自然環境保護の重要性を理解し、環境保全に取り組んでいく態度を養うことが重要であると捉えました。

- ①地球温暖化とその対策について、先進国や発展途上国など様々な立場から多角的に考えられるようにしました。
▶ p.188～189

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」ことについて、本書では、日本の伝統文化や宗教とともに、日本人が長い歴史のなかで培ってきた勤勉さや協調性など、世界にほころべき資質への理解が重要であると捉えました。

例 p.14~15 日本の伝統・文化

東日本大震災で再確認された「助け合い」や「和」の精神、そして「勤勉な気質」などを、世界からも賞賛される日本人の資質として取り上げることによって、伝統文化を尊重し、我が国や郷土を愛する態度を養えるよう配慮しています。

「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、紛争の原因について知ることとともに、日本の領土や領域についての理解を深め、平和構築に向けての取り組みを知ることが重要だと捉えました。そして、これからの日本では、さまざまな主体による国際協力が重要である点も強調しました。

- ①国旗や国歌を相互に尊重することが現代世界の儀礼であることを解説し、我が国のみならず諸外国の国旗および国歌を尊重する態度を養えるよう配慮しました。▶ p.166~167 など
- ②日本の領土や領域について、北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることを明記し、領土に関する現状を示しつつ、平和的な解決に向けてどのような方法があるのか考えられるよう構成しました。▶ p.168~169
- ③紛争をなくしていく態度を育成するために、その背景や平和実現の難しさを明確にしつつ、その解決に向けての努力を示すようにしました。▶ p.170~171 など
- ④日本の国際協力において、NGO や自衛隊などさまざまな主体が取り組んでいることを紹介し、人間の暮らしから安全保障を考える「人間の安全保障」の考え方の重要性を理解できるようにしました。▶ p.183「緒方貞子さんに聞く人間の安全保障」など

3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界で活躍する日本人	スポーツや科学技術などさまざまな分野で活躍する日本人の姿を共感やあこがれをもって認識し、積極的に社会に参画することの大切さに気がつくようにしました。 第3号 第5号	巻頭1~2
私たちと公民	結婚や選挙などが年齢に応じて可能になることを例に、自分と公民的分野との幅広いかかわりに気がつき、以降の学習への興味・関心を高め、主体的に取り組めるようにしました。 第2号	巻頭3
第1部 第1章 私たちの生きる現代社会について考えよう	高度経済成長期に懸命に働いた人々の努力や工夫によって今日の日本の発展が成し遂げられたことを示し、勤労を重んずる態度を養えるようにしました。 第2号	4~5
第2章 私たちの生活と文化について考えよう	日本の伝統・文化や宗教、「和」の精神など、海外からも賞賛される日本人の資質について理解することによって、郷土や国を愛する姿勢を養えるようにしました。 第5号	14~15
第3章 私たちの生きる現代社会の見方・考え方	最も基礎的な社会集団である「家族」のかけがえのなさを強調することによって、人間が社会的存在であることに気がつき、豊かな情操と道徳心を養えるようにしました。 第1号	20~21
	マンションの騒音問題などの解決を例に、対立から合意に至ることが大切であることや、合意した内容を検証するために効率や公正の考え方があることを、実感を伴って理解できるように構成しました。 第1号	22~27
第2部 第1章 民主主義について考えよう	民主主義の意義を部の学習の最初に取り上げ、以降の学習にいかせるように構成し、国民主権を担う公民として必要な基礎的素養を培い、主体的に社会の形成に参画する態度を養う基礎とできるようにしました。 第3号	32~33
第2章 日本国憲法について考えよう	道路拡張における立ち退き問題を例に、個人の自由と公共の利益をどのように調整するかについて考えさせる作業を行い、自由・権利と責任・義務の関係について理解を深められるようにしました。 第3号	56~57

第3章 国民として国の政治を考えよう	国会議員が国政に対して取り組んでいる「思い」を取材によって数多く取り上げ、国政のしくみや現状を臨場感をもって理解できるように構成しました。 第1号	61～85
第4章 住民として地方自治について考えよう	少子高齢化に伴い若者が減少していることから、若者のより一層の政治参加が求められる現状を記述し、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。 第3号	100～101
第3部 第1章 私たちの生活と経済について考えよう	経済活動が数多くの主体で分業されていることを示し、自分も経済主体だという認識をもてるようにしました。 第1号	106～107
第2章 消費者として経済を考えよう	契約の原則や消費者保護法制について記述し、自立した消費生活に必要な基礎知識を得られるようにしました。 第2号	116～117
第3章 企業を通して経済を考えよう	章全体を通じて、企業経営を疑似体験し、経営上つぎつぎと起きる問題点に対して自分なりに意思決定をする場面を設けることによって、働くことの意義を理解し、勤労を重んずる態度を養えるようにしました。 第2号	121～145
第4章 納税者として経済を考えよう	これからの日本の財政のあり方を、納税者の役割を踏まえて考えさせるよう構成し、納税者として主体的に社会に参画する態度を養えるようにしました。 第3号	158～159
第4部 第1章 世界平和の実現をめざして	国旗や国歌を相互に尊重することが現代世界の儀礼であることを解説し、我が国のみならず諸外国の国旗および国歌を尊重する態度を養えるよう配慮しました。 第5号	166～167
	北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることを明記し、領土に関する現状を示しつつ、平和的な解決に向けてどのような方法があるのか考えられるよう構成しました。 第5号	168～169
	政府や自衛隊、NGO などさまざまな主体が国際協力に取り組んでいることを紹介し、国際社会の平和と発展に寄与することの大切さを理解できるようにしました。 第5号	180～183
第2章 環境問題について考えよう	地球温暖化を例に、国際社会において解決にむけた取り組みが行われていることを示し、環境保全に寄与する態度を養えるようにしました。 第4号	188～189
第5部 第1章 より良い社会をめざして 持続可能な社会について考えよう	発展途上国の教育についてのレポート作成を例に、探究の流れを示しました。自分とのかかわりを重視し、世界的な視野と地域的な視点に立って探究できるようにしました。 第3号	199～203
より良い未来をめざして	中学生が国際交流や伝統文化の継承などのさまざまな分野に取り組む姿を紹介し、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。 第3号	巻末2～3

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① すべてに生徒に読みやすい表現の工夫

- 見開きにおけるデザインや、グラフ・地図などの資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うよう配慮しました。極力模様などを入れず、配色のみで色が区別できるようにしたほか、折れ線グラフなどは形をはっきりさせるため、線を太くするなどの工夫もしています。これにより、すべての生徒が読み取りやすい表現になっています。
- 本文などでは、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用しました。

② 環境に優しい素材と堅牢な造本

- 紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用しています。一方で写真がきれいに見えるよう、白くて裏映りが少ないものを使用しています。
- インクには国産米の米ぬかからつくられるライスインクを使用しています。
- 使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりをしています。

③ 家庭での自学自習に配慮した点

- 家庭に持ち帰ることを想定し、紙はできるだけ軽いものを使用しています。
- 通常ページには「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」を設置し、予習・復習をやすくしました。また、「学習をふりかえろう」も復習をしやすいよう配慮しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26—86	中学校	社会科	公民	3学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	公民—932	社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして		

1 編修上特に意を用いた点や特色

主体的に社会の形成に参画する意識を育む教科書

中学生が将来社会に出たときに直面するであろうさまざまな課題や、権利や義務の関係についての理解を深め、公共の精神を尊びながら、主体的に社会の形成に参画する意識を育めるよう、以下のような特色をもった教科書を編修しました。

本書の特色

- ① 学習内容と結びつく、身近な事例や現実の社会の動きから学べる工夫
- ② 中学生が現在、そして将来直面するであろう課題と、解決に向けての取り組みを踏み込んで提示
- ③ 社会のしくみや概念、「対立と合意」「効率と公正」などの見方・考え方をしっかり身につけられる構成
- ④ 効果的な作業・活動を通じて思考力・判断力・表現力を高める工夫

特色 1 学習内容と結びつく、身近な事例や現実の社会の動きから学べる工夫

公民的分野で学ぶ内容が、単にしくみや概念を覚えることではなく、自分たちの生活に関わることを学ぶのだと気づかせるようにし、実感を伴った理解をすることで、社会参画への意識が高まるように配慮しました。

① ビジュアルな紙面で各部の学習内容への意識を高める「学習の前に」

各部の初めに、これから学ぶ内容を身近なできごとに結びつけて考えられるページを設けました。大きなイラストや資料からの読み取り作業を行うことで、生徒の興味・関心を高めつつ、各部の学習のエッセンスとなる内容に気づけるようにしました。

例えば p.104～105 では、身のまわりでお金が使われている場面を探させ、取り引きが貨幣を通じて行われていることに気づかせるとともに、自分も経済活動の主体であることを意識させています。



▲「学習の前に」の例 (p.104～105)

「学習の前に」	
p.2～3	30年前と今の社会を比較してみよう
p.30～31	暮らしを良くする政治を考えてみよう
p.104～105	身のまわりの暮らしと経済について考えてみよう
p.164～165	世界の子どもたちと協力できることを考えてみよう

② 実社会の動きから学習に入る「クローズアップ」

本文ページ左上では、学習内容に関係する実社会の動きを取り上げました。これにより、本文で書かれている制度やしくみと現実の社会とを「橋渡し」し、実感を伴った理解ができるように配慮しました。

例えば p.132「障がいがあっても働ける場を」では、企業の社会的責任について学習する単元の導入として、障がいのある人を積極的に雇用しているN社の事例を取り上げました。「一人ひとりにできることがある」と語る経営者の声や、障がいのある人が真剣に働く姿から、制度の知識理解に留まらず、働くことの意義や自身の職業生活についても実感を伴って考えさせることができます。



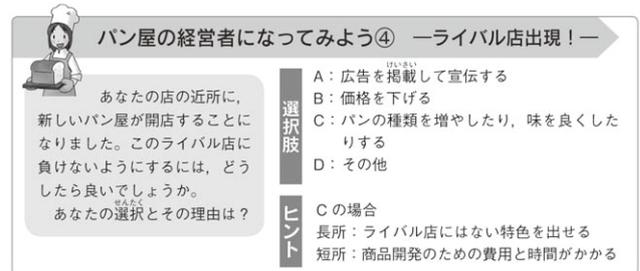
▲「クローズアップ」の例 (p.132)

③ 疑似体験を通じて活きた知識が身につく「連続コラム」

本文の学習内容とつながりをもたせた、シミュレーション仕立ての連続コラムを随所に設けました。これにより、生徒自らが、実感を伴い、興味・関心をもちながら、社会に出た際に役立つ「活きた知識」を身につけられます。

例えば p.121~145「パン屋の経営者になってみよう」では、見開きで学習した内容を踏まえ、自分がパン屋の経営者だったらどのような選択をするかを、章全体を通じて考えさせていく構成としました。「遠い世界のこと」と思われがちな経済の学習内容を、「自分ならどうするか」という主体性をもって学習できるようにしています。

p.127では、自分が経営者ならばどのような「強み」を打ち出すかを考えさせることを通じて、企業競争の意義を実感を伴って理解できるよう配慮しています。

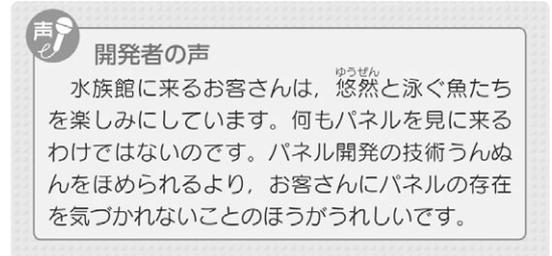


▲「連続コラム」の例 (p.127)

④ 実社会で活躍する人々の「声」を掲載するコーナー

実社会で活躍する人々の「生の声」を多数掲載し、共感をもちながら社会参画への意識を高められるよう配慮しました。

例えば、p.122「開発者の声」では、水族館の水槽のアクリル板などをつくる世界でも評価の高い中小企業を取り上げ、中小企業の高い技術と自負について共感できるようにしました。



▲「声」の例 (p.122)

特色2

中学生が現在、そして将来直面するであろう課題と、解決に向けての取り組みを踏み込んで提示

本書では、中学生が社会人になる将来に直面するであろう、少子高齢化や情報化、グローバル化などの影響について重点的に取り上げ、現状や課題、そして解決への取り組みを示しました。これにより、将来に対し明るい展望をもち、積極的に社会に参加する意識を高められるように工夫しました。

① 現在の課題とその解決への取り組みを記述した本文

社会や政治、経済、国際の各分野の本文記述において、社会のしくみや概念の説明に加えて、少子高齢化に伴う人口減少やグローバル化に伴う世界経済の一体化などの影響を受け、現在の社会にはどのような課題があり、どのような取り組みが求められているのかを理解できるようにしました。

例えば p.140~141「これからの日本の産業」では、これからの日本経済の「強み」になる点として、高い技術力にもとづく「ものづくり」や、環境・福祉分野での蓄積などを紹介しています。これにより、日本経済の発展に前向きに参画していく意欲を高められるように配慮しました。

② 未来の社会をつくるために参考になる取り組みを紹介する「羅針盤マーク」のコラム

少子高齢化、グローバル化など現代および将来の社会が直面する課題について、参考になる取り組みを紹介することによって、自分自身も社会の一員として公共の精神をもち、主体的に社会の形成に参画する責任があることを実感できるようにしました。

例えば p.157「高齢社会を支える年金」では、少子高齢化が進み、保険料を納める世代が減っている現状や、年金未納が増えている問題点を指摘し、年金制度を維持するためには納付率の向上が重要であることを理解できるよう配慮しています。



▲「羅針盤マーク」のコラムの例 (p.157)

③ 持続可能な社会に向けて各地域で行われている取り組みを紹介する「未来に向けて」

特設ページ「未来に向けて」を設け、企業や地方公共団体による先進的な取り組みの事例を紹介し、持続可能な社会のあり方のヒントとなるようにしました。

例えば p.98～99「防災とまちづくり」では、阪神・淡路大震災の教訓をいかす神戸市の取り組みなどを紹介し、東日本大震災以降のまちづくりに求められる、行政や住民の役割について考えられるよう配慮しています。

④ 日本の伝統文化や宗教にかかわる内容の充実

日本の伝統文化や宗教、世界にはこるべき日本人の資質を取り上げ、少子高齢化の現状をふまえて、文化を継承し、創造していくことの大切さを理解できるようにしました。 ▶ p.14～17

⑤ 日本の領土・領域にかかわる内容の充実

北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることを明記し、領土に関する現状を示しつつ、平和的な解決に向けてどのような方法があるのか考えられるよう構成しました。 ▶ p.168～169

特色3

社会のしくみや概念、「対立と合意」「効率と公正」などの見方・考え方をしっかり身につけられる構成

民主政治の意義や、国民生活の向上と経済活動とのかかわりなどに関する知識、そして「対立と合意」「効率と公正」などの見方や考え方をしっかり身につけられるよう、展開と構成を工夫し、ていねいでわかりやすい本文と適切な資料を用意しました。とくに本文は、中学生が自学自習しても理解しやすい記述となるよう留意しました。

① 具体的で生徒の理解が深まる本文

本文は、全編にわたりていねいな記述を心がけ、具体例を入れて中学生にとって理解しやすい記述にし、因果関係についても意識して記述するようにしました。

新しい商品や技術を開発したり、ほかの企業よりも安くて品質の良いものを供給したりすれば、その企業の製品はたくさん売れ、利潤も大きくなります。しかし、こうした努力をおこたれば、利潤は小さくなります。つまり、利潤は、企業の努力の結果を反映した「成績表」だともいえるでしょう。

▲本文記述の例 (p.121)

② 「対立と合意」「効率と公正」の見方・考え方を全編で重視

学習指導要領(1)「現代社会をとらえる見方や考え方」を踏まえ、以降の学習でもいかせるよう、第2部以降の本文記述でふれたり、対立する意見を資料として紹介したりしました。 ▶ p.30～31「学習の前に」など

とくに、あるテーマにおける賛成・反対の意見を紹介する「YES NO」のコーナーを随所に設け、対立軸を設定し、さまざまな立場から考えることを促しています。 ▶ p.159「国債発行について」など計6箇所

③ 使い方が整理された見開きの構成

学習内容への理解をより深めるために、各見開きの使い方を整理しました。判型を AB 判にして紙面をワイドにすることで、社会のしくみや現状がわかる本文と、興味・関心を引く、大きくて見やすい資料を充実させました。



▲見開き構成の例 (p.36～37)

① クローズアップ … 具体事例を大きく掲載し、生徒の興味・関心を引き出し、学習内容と現実との「橋渡し」ができるよう工夫しました。

② 学習課題 …… これからの学習でおさえるべき課題を示しています。

③ 解説 …… 本文をより深く理解するための用語の解説を各所においています。

④ 資料活用 …… 地図やグラフなどの注目すべき点を提示しています。

⑤ 確認しよう …… 基礎的・基本的な知識の確認を行います (習得)。

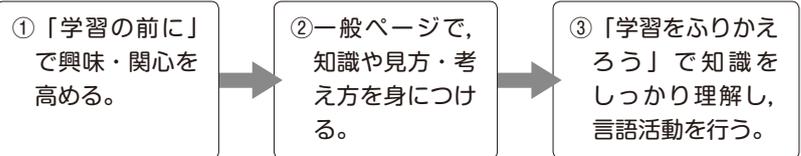
⑥ 説明しよう …… 思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動を行います (活用)。

④ 本文をより理解するための「解説」

公民を学習するうえで大切な用語をわかりやすく説明した「解説」を、全 45 箇所設けました。

⑤ 知識をしっかりと理解し言語活動を行う「学習をふりかえろう」

学習の最後には、これまでの学習をふりかえって、知識をしっかりと理解するページを設けました。さらに、学習内容をふまえて自分の言葉で説明する言語活動の作業も設けました。



▲知識をしっかりと理解するための構成

特色 4 効果的な作業・活動を通じて思考力・判断力・表現力を高める工夫

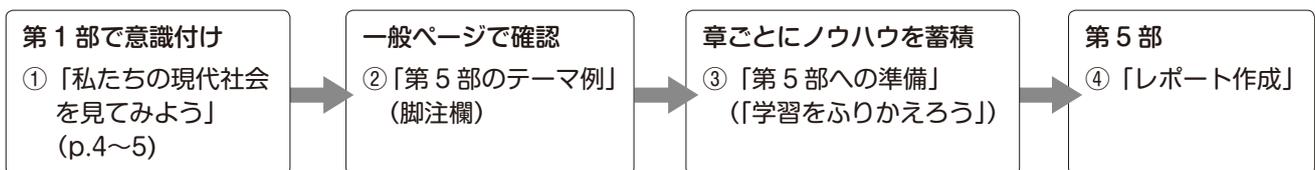
多面的・多角的に社会の事象を捉えられるよう、生徒に考えさせる場面を効果的なものに仕上げ取り上げました。レポートなどの言語活動も促すことで、思考・判断・表現といった言語活動の能力を養い、社会参画への意識を高められるように構成しています。

① 生徒の主体的な学習を促す「トライアル公民」

「対立と合意」「効率と公正」の見方・考え方をふまえて、自分の意見をまとめたり、さまざまな立場から話し合ったりするための題材を用意しています。これらの作業を通じて、学習した内容をさらに深めることによって、生徒の自主性や創造性をのばせるよう配慮しました。▶ p.82～83「裁判の判決を考えよう」など

② レポート作成を通じて課題を探究する「第 5 部 より良い社会をめざして」

学習指導要領(4)イ「よりよい社会をめざして」の探究活動について、授業時数が限られるなかでもスムーズに探究活動を行えるよう、あらかじめ本書全体にレポート作成のヒントやきっかけを示しました。第 5 部の学習のさい、これらの箇所をふりかえって活用できます。



▲「第 5 部 より良い社会をめざして」につながる構成

2 対照表

単元構成	箇所	学習指導要領の内容	構成・内容の特色	配当 時数
第1部 私たちと現代社会		(1)		12
第1章 私たちの生きる現代社について考えよう	p.4 } 11	(1) ア	• 高度経済成長期の人々の努力により、今日の発展が成し遂げられたことを示すことで、勤労への意欲を高めるとともに、歴史的分野との関連をはかるようにしました。	4
第2章 私たちの生活と文化について考えよう	p.12 } 17	(1) ア	• 日本の伝統・文化や、「和」の精神などの価値観をとりあげ、郷土や国を大切にす姿勢を養うとともに、文化の継承と創造の意義に気づけるようにしました。	3
第3章 私たちの生きる現代社会の見方・考え方	p.18 } 28	(1) イ	• 家族や地域社会の大切さについて丁寧に扱い、人間が社会的存在であることを実感を伴って理解できるよう構成しました。 • 「対立と合意」「効率と公正」の見方や考え方を、作業をまじえて身につける構成にしました。	5
第2部 私たちと民主政治		(3)		31
第1章 民主主義について考えよう	p.32 } 35	(3) ア イ	• 民主主義の意義を部の最初に取り上げ、国民主権を担う公民として必要な基礎的素養を培えるよう配慮しました。	2
第2章 日本国憲法について考えよう	p.36 } 59	(3) ア	• 公共の福祉について多様な立場から考える特設ページを設け、自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から認識できるようにしました。	11
第3章 国民として国の政治を考えよう	p.60 } 87	(3) イ	• 国会議員のコメントを通じて、国政の現状や課題を具体的に理解できるよう構成しました。	12
第4章 住民として地方自治について考えよう	p.88 } 102	(3) イ	• 単元全体で p.30～31「学習の前に」を活用できる構成にしました。	6
第3部 私たちと経済活動		(2)		25
第1章 私たちの生活と経済について考えよう	p.106 } 111	(2) ア	• 「分業」や「資源の効率的な配分」について具体的に記述し、市場経済の基本的な考え方について理解できるようにしました。	3
第2章 消費者として経済を考えよう	p.112 } 119	(2) ア イ	• 消費者の自立支援を含めた消費者行政について扱いました。	4
第3章 企業を通して経済を考えよう	p.120 } 147	(2) ア	• パン屋の経営者になって考える作業を通じて、企業の経済活動について主体的に学習できるようにしました。	12
第4章 納税者として経済を考えよう	p.148 } 162	(2) イ	• 少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえつつ、これからの日本の財政のあり方を、納税者の視点から考えさせるよう構成しました。	6
第4部 私たちと国際社会		(4) ア		15
第1章 世界平和の実現をめざして	p.166 } 185	(4) ア	• 我が国や諸外国の国旗および国歌を尊重する態度を養えるよう配慮しました。 • 北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることを明記し、領土に関する現状を示しつつ、平和的な解決に向けてどのような方法があるのか考えられるよう構成しました。	10
第2章 環境問題について考えよう	p.186 } 196	(4) ア	• 地球温暖化を例に、地球環境問題の解決に向けて、国家をこえて経済的・技術的な協力が必要であることを理解できるようにしました。	5
第5部 より良い社会をめざして		(4) イ		7
第1章 持続可能な社会について考えよう	p.198 } 203	(4) イ	• 発展途上国の教育についてのレポート作成を例に、課題設定から発表までの流れを示しました。世界的な視野と地域的な視点に立って探究できるようにしました。	7